



わが身つねって 人の痛さを知る

町長 大谷隆照

3月9日に五霞中学校の卒業式がありました。卒業生は115名でした。

「我が身つねって人の痛さを知る」という諺があります。この諺はとても大事なことを伝えてくれると思います。

私は座骨神経痛でこの2か月程とてもつらい思いをしています。座っていた席からここに来るまでの短い距離を歩くのさえとても痛いのです。みなさまはまだ若いですから座骨神経痛のつらさは知らないと思いますが、保護者の方には経験された方がいるかと思っています。

こういう状態になって私が思うことは、自由自在に自分の足で歩けることのありがたさということですね。ふだん何でもない時には歩けるということとはあたり前のことだと思つています。しかし、歩けるということ、これは大変なことだということを改めて思い知ったわけです。と同時に、脚に障害のある方、あるいは車椅子で生活している方々のつらさや、苦しさのほんの一端だとは思いますが解つたよ

うな気がします。

みなさまはこれから長い人生を送るわけです。病氣、けが、その他諸々の痛みや苦しみ、悲しみ等を経験することになると思いますが、その時この諺「わが身つねって人の痛さを知る」を思い出してほしいのです。そして、この今の苦しみは何のためにあるかといえば、人の苦しみを理解するためにある、あるいは人とのかけ橋となるためにあるということをお忘れなさいたいのです。

今、日本の社会は大人の社会も子ども社会も深く病んでいる気がしてなりません。原因はいろいろあるでしょうが、私は「人の痛みを理解する能力の低下」ということもその原因としてあげられるのではないのでしょうか。何故なら、人の痛みが分るということが人間としての最低の条件だと思うからです。

以上が卒業式で述べさせていだだいた言葉です。卒業式はともしてもしつとりとすばらしい卒業式でした。

思いやりの心で明るい社会を

何気ない 差別について

五霞中学校 1年生

僕は、何気ない差別について、体験を元に考えてみました。

小学生の時のことですが、友だちが僕の家に遊びに来て、父が料理をしているところを見て、「え、お父さんが料理をするの。」と、言いました。友だちは、男が家事をするなんて珍しいと思つたのでしよう。僕は、父が料理を作るのをよく見ているので、きつとみんなの家も同じだろうと思つていました。でも事実は違つていたのです。僕は、逆にそのことを疑問に思いました。（なんで、みんなのお父さんは家事をしないのだろう。）と。ある日、僕は家でテレビの番組を見ました。その内容は、ごく普通の家庭の1日を映したも

のでした。しかし、登場人物のお母さんの言うことにはびっくりしました。男の子に「ちゃんと勉強しなさい。男の子でしょ。」

そして、女の子には、「女の子なんだから、お手伝いしてね。」

なんだ、これと思いました。一番身近にある家庭で、こんな差別があつたのです。このテレビや友だちとのやり取りから、僕は、男性と女性との間にある差別について考えるようになりました。

昔は、家での女性の立場はとても低く、男性の方が立場が高かつたそうです。最近ではある程度、女性の地位は上がったけれど、まだ男性の方が高いように感じます。テレビに映る政治家や消防士、パイロットなどの職業はほとんどが男性で、女性はほんのわずかです。その理由は、体力的に無理だなどが挙げられています。しかしそれは、男性にはできるが、女性にはできないという固定観念があるせいで、本当はもっと女性が活躍できる場があると思います。このように、今までは女性には取るに足らないことで差別を受け、生きる権利を傷つけられてきました。僕は、差別のない世界が来ることを願っています。

GOKA ソフトバレーボールクラブ

幸手市近隣大会ブロック優勝

2月20日に開催された第7回幸手市近隣ソフトバレーボール大会男子の部で、GOKAソフトバレーボールクラブが見事ブロック優勝を果たしました。

大会には、幸手市近隣より男子、女子、混合の3部門に総勢48チームが参加しました。予選リーグは幸手市、大根根町、越谷市のチームと対戦、2勝1敗の2位で勝ち抜くと、優勝決定戦ではフルセットで幸手チームを下し、優勝の栄冠を掴みました。

対戦相手はみなGOKAチームよりも若いメンバーでしたが、日ごろの練習の成果と年の功を発揮し、落ち着いた試合運びと粘り強さで、幸手大会男子の部初優勝を飾りました。

